

### 3 地域別の動向

#### (1) 北海道



北海道地域では、景気は新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるが、このところ持ち直しの動きがみられる。

- ・ 鉱工業生産は一部に持ち直しの動きがみられる。
- ・ 個人消費はこのところ持ち直している。
- ・ 雇用情勢は感染症の影響により、弱い動きとなっている。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す (    は上方に変更、    は下方に変更)。

#### 前回からの主要変更点

	前回 (令和2年5月)	今回 (令和2年9月)	
景況判断	新型コロナウイルス感染症の影響により、急速に悪化しており、極めて厳しい状況にある	新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるが、このところ持ち直しの動きがみられる	↑
鉱工業生産	新型コロナウイルス感染症の影響により、急速に減少している	一部に持ち直しの動きがみられる	↑
観光	新型コロナウイルス感染症の影響により、急速に減少している	一部に持ち直しの動きがみられる	↑
個人消費	新型コロナウイルス感染症の影響により、急速に減少している	このところ持ち直している	↑
雇用情勢	新型コロナウイルス感染症の影響により、弱さが増している	感染症の影響により、弱い動きとなっている	→

#### 1. 鉱工業生産等の動向

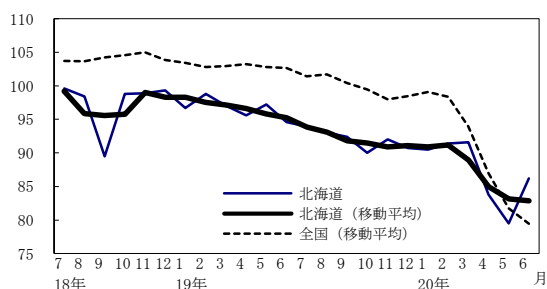
(1) 第一次産業は生乳生産は前年を上回り、主な水産物の生産額は前年を下回っている。

4-6月期には、生乳生産は総量では1,055,603tと前年比2.4%増となった。主な水産物<sup>1)</sup>の生産額(主要9港)は、すけとうだら等が減少したため、前年比18.1%減となった。

(2) 鉱工業生産は一部に持ち直しの動きがみられる。

4-6月期には、食料品は、塩蔵品等の生産が減少したことにより、減少した。パルプ・紙は、新聞巻取紙等の生産が減少したことにより、減少した。電気機械は、減少した。鉄鋼は、特殊鋼棒鋼等の生産が減少したことにより、減少した。化学・石油石炭製品は、減少した。

鉱工業生産指数



(備考) 1. 2015年=100、季節調整値。北海道の最新月は速報値。  
2. 全国及び北海道の太線は中心3か月移動平均。直近月は2か月平均。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比)(%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		1-3 月期	4-6 月期	4月	5月	6月
食料品	25.9	7.6	▲3.2	▲1.4	4.2	▲5.7
パルプ・紙	13.1	▲11.8	▲11.1	▲2.3	▲9.0	2.6
電気機械	9.1	▲5.4	▲14.3	▲4.5	▲20.6	4.5
鉄鋼	7.9	▲0.6	▲22.9	▲10.1	▲25.3	11.7
化学・石油石炭製品	7.6	11.4	▲7.5	▲2.3	▲9.6	16.8
鉱工業	100.0	0.3	▲8.8	▲8.5	▲5.1	8.4

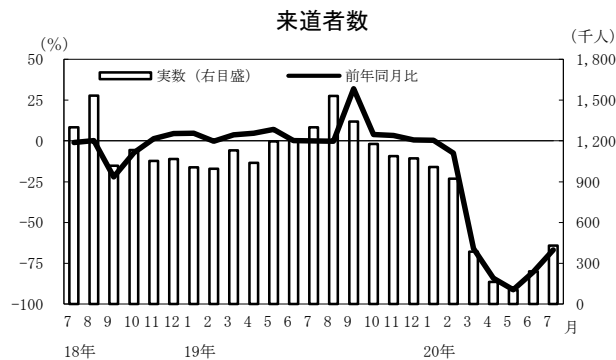
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。  
2. 4-6月期、6月は速報値。

<sup>1)</sup>主な水産物は、するめいか、さんま、すけとうだら、たこ類、ほっけを対象魚種とする。

(1) 北海道

(3) 観光は一部に持ち直しの動きがみられる。

来道者数は、航空機の利用者減などがあり、減少した。



(備考) 北海道観光振興機構調べ。

2. 個人消費の動向

個人消費はこのところ持ち直している。

(1) 地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

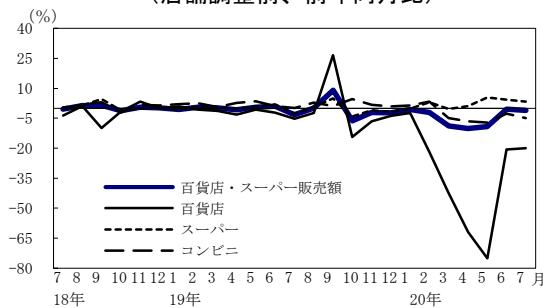
4月は前月比0.5%増、5月は同0.3%増、6月は同3.1%増となった。

(2) 百貨店・スーパー販売額

百貨店は、4、5月は、緊急事態宣言等に伴う休業や営業時間の短縮が実施されるなか、衣料品等が減少したことにより、前年を下回った。6月は、衣料品等が減少し、前年を下回ったが、緊急事態宣言解除に伴う営業再開等により、減少幅は縮小している。7月は前年同月比20.0%減となった。

スーパーは、4-6月期は、飲食料品が増加したことにより、前年を上回った。7月は前年同月比3.4%増となった。

百貨店・スーパー販売額等  
(店舗調整前、前年同月比)



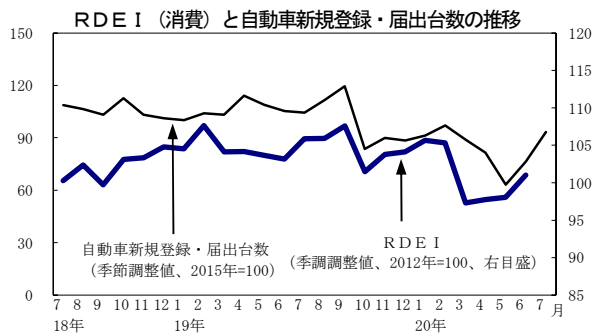
	2020年4-6月	2020年4月	5月	6月	7月
RDEI (消費*1)	▲3.7	0.5	0.3	3.1	—
百貨店・スーパー(*2)	▲6.6	▲10.2	▲9.2	▲0.4	▲1.1
百貨店(*2)	▲52.1	▲61.9	▲75.0	▲20.6	▲20.0
スーパー(*2)	3.6	1.1	5.4	4.3	3.4
コンビニ(*2)	▲5.5	▲6.5	▲7.2	▲2.7	▲4.9
乗用車(*3)	▲32.0	▲28.9	▲44.1	▲24.4	▲12.3
(季節調整値)(*3)	▲20.3	▲8.4	▲22.4	20.7	22.0

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

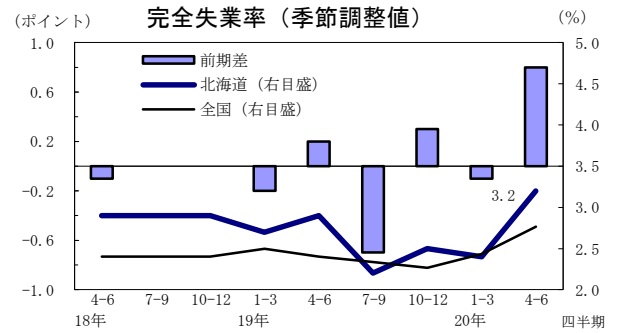
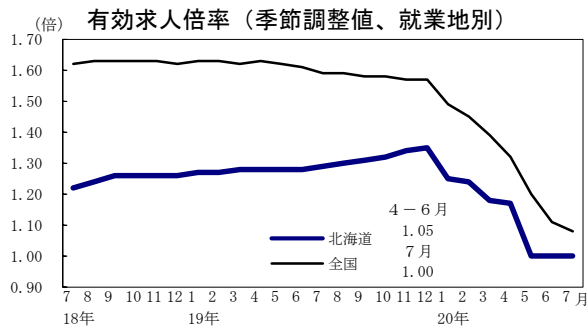
2020年7月は速報値。

3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))



### 3. 雇用情勢

雇用情勢は感染症の影響により、弱い動きとなっている。  
有効求人倍率は低下している。完全失業率は前期を上回っている。



(13) 景気ウォッチャー調査 (令和2年7月調査) 景気判断理由の概要

1. 北海道

( 良、 やや良、 不変、 やや悪、 ×悪 )

分野		判断	判断の理由
現状	家計 動向 関連		・新型コロナウイルスの影響による景気低迷に加えて、長雨や大雨による作物高騰の影響が重なり、2～5月の水準を上回ることができない状況にある(商店街)
		×	・前年の約8割にまで来客数が回復したことに加えて、新機種の購入や乗換えを行う客が想定よりも多かった(通信会社) ・新型コロナウイルスの影響で観光客が減少している。直接的な影響は余りないが、間接的にじわじわと影響が広がっている(コンビニ)
	企業 動向 関連		・業種にもよるが、新型コロナウイルスの影響が広範囲で数字となって表れてきている(コピーサービス業)
		×	・3か月前も悪い状況だったが、そこから更に1割ほど落ち込んでいる(食料品製造業) ・3か月前と比較すると、経済活動の再開とウィズコロナ関連での需要により案件が増加しており、当社の景況感としてはやや良くなっている(通信業)
	雇用 関連		・ステイホームの状況下であった4月と比較すると、徐々にではあるが、新店舗オープンに伴う人員募集や営業再開に伴う増員募集の依頼が増えてきている(求人情報誌製作会社)
	×	・6月の有効求人倍率は1.03倍であり、前年を0.03ポイント下回っている(職業安定所)	
その他の特徴 コメント			：自粛の緩和に伴い、経済が少し回り始めている。請負物件も動き始めた(家具製造業) ：全国的な新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、外出に対する自粛ムードが再燃しており、景気が悪くなっている(タクシー運転手)
分野		判断	判断の理由
先行き	家計 動向 関連		・新型コロナウイルス終息の見通しが立たず、今後も新しい生活様式の中での動きとなるため、現在の状況と大きな変化はないまま推移する(スーパー)
			・新型コロナウイルスの影響で、外出も考えてからの行動となっている。今の状況が改善されるまで、消費は控えられることになる(乗用車販売店)
	企業 動向 関連		・新型コロナウイルス感染拡大の影響はまだまだ解消できない。新型コロナウイルスの終息がみえないなか、様々な業種の会社で業績が悪くなっていることから、今後の景気は悪いまま変わらない(金属製品製造業)
		×	・新型コロナウイルスによる経済への影響は2～3年続くとみられていることから、民間の建設投資に対する意欲が減退し、冬季に向けて厳しい状況が続く(建設業) ・新型コロナウイルスの影響で、大型イベントが軒並み中止となっているほか、再度の外出自粛などが生じる懸念もあるなど、景気が上向く要素が全くない(広告代理店)
雇用 関連		・観光に関わる業種の多い道内では、しばらく先のみえない状況が続く。各大学での就職内定率もしばらくは上昇を全く期待できない。久々の氷河期到来が懸念される(学校[大学])	
その他の特徴 コメント			：どうみん割やGo To Travelキャンペーンなどの経済施策が始まったことで、人の流れが出てくることになる。それにつれて、身の回り品の動きも出てくるため、今後の景気はやや良くなる(百貨店) ：連日の感染者数の報道により、消費者の不安が増大していることから、今後、自粛行動が進むことを懸念している(高級レストラン)

(D I) 現状・先行き判断D I (北海道)の推移(季節調整値)

